

福祉体験学習 「共に生きる」



谷口さんの話

- 谷口さんは見るのが苦手。私は社会が苦手でそれと同じ。分からないことはどうやったら分かるかを工夫していました。
- 谷口さんが、今までで一番うれしかったことは、目の不自由な人の陸上世界選手権でメダルがもらえたときだそうです。わたしも谷口さんのように夢や目標をもってがんばりたいです。
- 谷口さんが、外出のとき一番困るのが、人が少なく道がわからない時や、落とし物をした時だそうです。谷口さんは声をかけてくれたら安心すると言っていたので、白杖を持っている人がいたら、私も声をかけてあげたいなと思いました。

高齢者 体験

- 体が重いなか、ひざを曲げることや、ふとんから起き上がることがとても大変だと思いました。ぼくたちはまだ子どもだからかんたんに体を動かせるけど、高れい者はとてもくろうして動かしていると分かりました。
- 体が重くなって、つえを持たなくてはならない時があるくらい重かったです。しゃがむ時に重いのが下に重くなっていて、ドスッと落ちそうになってしまいました。いつもの歩き方ができないのは、とてもつらかったです。そして、高れい者が楽にくらせる社会や道具がもっとふえたらいいなと思いました。
- 上にある物を取るとき、手が重かったです。ねころがってから起き上がる時、いつものようにスッと起き上がれなかったです。



車椅子 体験

- 車いす体験をするまで、車いすを動かすのは絶対かん単だと思っていました。でも、重いし、がたがた道や細い道はとても大変でした。車いすに乗るのは、歩くくらい簡単だろうと思っていたのに、前に進もうとしたら曲がってしまい、大変でおどろきました。少しずつしか進まないし、手がかかるので、車いす生活の人は大変だろうな、と思いました。だから、車いすに乗っている人がこまっていたら助けたいです。
- 自分でこぐと、うでがいたくなった。車いすの人はこれが毎日だと思いと、うでのきん肉がないと、しんどいと思う。だんさのところ動かなくて困った。バリアフリーの町にしていきたい。



- 車いすに乗ると、上り坂もこわいけど、下り坂の方がこわかったです。おすのもむずかしいし、一人だったら本当にこわいだろうと思いました。自分がもし、車いすに乗らないといけない体になったら、どうすればいいのか分かりません。だから、車いすに乗っている人がいたら、手伝いたいです。

アイマスク 体験

- 体験が終わった後、「男子トイレに入りよったで」と教えてもらって私はふつうに歩いていたと思うのでびっくりしました。「こっち、こっち」と言われてもどこに行けばいいかわからないのでこまりました。右とか左とか言ったら助かるんだろうなと思いました。
- かいじょしゃがいてもすごくこわかったので、びっくりしました。目の不自由な人の世界は、真っ暗だとわかりました。一人とかはじめて通る道はこわいんだと思いました。



- 今日歩いた道は知っているけど、かいじょしゃがいてもこわくて場所がわからなかった。もし、知らない場所で階段があったらどこまで階段があるかわからないし、こわいと思った。人が多いところに行くと、人をたくさんよけないといけないから、まわりの人の協力も大切なことがわかった。

点字 体験

- 点字をうつとき、強くうつとあなが空いて、弱いと点字がうかび上がらないので、むずかしいなあと思いました。
- 自分でうった点字を手で読もうとしたけど、全然わからなくて、点字をおぼえるってすごいことだなと思いました。目の不自由な人の苦労が初めてわかりました。いろんな人の気持ちを考えるのは大事だなと思いました。
- 文字なら消しゴムで消せるけれど、点字は一回まちがったら消すことができないので、しんちょうにやらないといけない分、とても疲れしました。今どこまでうったかなと、と中でまよったりもしたけど、確にんしながら最後までうつことができうれしかったです。

